



たてあなじゅうきよあと
第2号竪穴住居跡

奈良・平安時代の住居跡です。カマド付近から、甕と台付甕が出土しました。どちらも煮沸用の鍋です。



カマドの仕組み（復元図）

甕はカマドの架り口の穴にピタリとはまるような形に作られています。



第2号竪穴住居跡カマド



第4号竪穴住居跡

宮前遺跡周辺の遺跡



台地・段丘 自然堤防 氾濫平野 河川

「国土地理院 地理院地図」と「埼玉県埋蔵文化財情報公開ページ」より作成

宮前遺跡は、大宮台地の北西部に位置します。遺跡の南側は、谷が樹枝状に入り込んでおり、宮前遺跡はこの谷を臨む台地の縁辺部に形成されています。

今回の調査地点では、中世の溝跡や土壌等が多数見つかりました。

近隣の宮前本田遺跡（8）は、同時期の在地有力者の館跡と推定されています。

また、平右衛門遺跡（2）や九右衛門遺跡（4）、伝源経基館跡（14）など、この地域には中世の遺跡が集中しています。

- | | |
|-----------|------------|
| 1 宮前遺跡 | 12 根際遺跡 |
| 2 平右衛門遺跡 | 13 城山遺跡 |
| 3 箕田古墳群 | 14 伝源経基館跡 |
| 4 九右衛門遺跡 | 15 前通遺跡 |
| 5 富士山遺跡 | 16 二本木遺跡 |
| 6 富士山南遺跡 | 17 神明遺跡 |
| 7 宮前本田北遺跡 | 18 宮地3丁目遺跡 |
| 8 宮前本田遺跡 | 19 栄町遺跡 |
| 9 登戸新田北遺跡 | 20 鴻巣御殿跡 |
| 10 登戸新田遺跡 | 21 本田二ノ割遺跡 |
| 11 登戸本村遺跡 | 22 糠田古墳群 |

鴻巣市 宮前遺跡（第5次）



宮前遺跡の発掘調査は、一般国道17号（上尾道路Ⅱ期）建設事業に伴って、令和3（2021）年7月から開始しました。今年度の調査が第5次調査となります。

宮前遺跡では、これまで縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中・近世の遺構や遺物が見つかりました。

第5次調査では、中世と奈良・平安時代の遺構が見つかりました。今回の見学会では、奈良・平安時代の竪穴住居跡、中世の溝跡などをご覧ください。

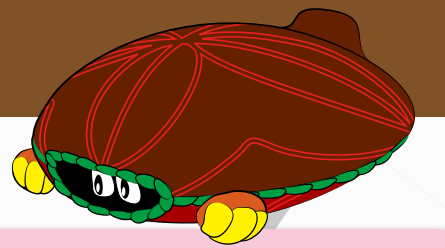
主催 公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

後援 鴻巣市教育委員会

共催 国土交通省 関東地方整備局 大宮国道事務所
埼玉県教育委員会

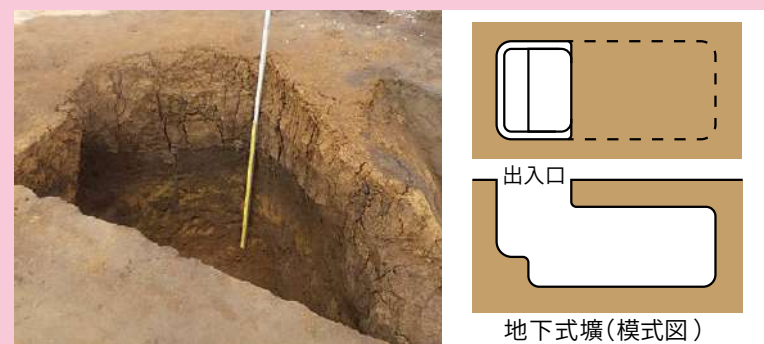
宮前遺跡（第5次）全体図

中世



みぞあと
溝跡

すべて中世の溝跡で、多くの遺物が出土しました。
第1号溝跡と第2号溝跡は、調査区の北北西から南南東にかけて並走しています。第4号溝跡は、北北東から南南西方向に掘削された幅約4m、深さ約2mの大きな溝です。



ちかしきこう
地下式墳

中世に関東地方を中心に造られた地下室の一種です。入口の堅坑とその底から横に掘られた部屋とで構成されるのが特徴です。
用途については諸説ありますが、貯蔵庫や埋葬施設と推定されています。



たんとう
短刀（第4号溝跡）

第4号溝跡の上層と下層から二振り出土しました。
上層出土の短刀は長さ約32cmの完形で、木製の柄の一部が残っています。



どうせん
銅銭「治平元寶」（第2号・第4号溝跡）
中国北宋時代の貨幣です。
1064年から1067年につくられました。篆書体という文字が使用され、「治平元寶」と読みます。

第2号堅穴住居跡

第4号堅穴住居跡

第5次調査区



第1次調査区



第3次調査区



りよくでいへんがん
緑泥片岩（第4号溝跡）

板碑の石材となる緑泥片岩の破片が大量に出土しました。板碑とは鎌倉時代から戦国時代にかけて、主に武士層が建てた供養塔です。



ほんそん ほんじ
本尊を梵字で表し、この図は阿弥陀如来です。本尊の下に仏教の経典を、さらに年月日、造立の目的を刻みます。造立の目的は死者や自分自身の死後の安寧を願うものが一般的です。

(図：鴻巣市史引用)



わんがたさい
梔形滓（第4号溝跡）

鍛冶を行ったときに鍛冶炉の底にお椀のような形に溜まった、鉄分を含んだガラス質のくずです。



じき
磁器（第2号・第4号溝跡）

中国から輸入された青磁の破片です。日本では江戸時代の初頭まで磁器を作ることができませんでした。



とうき
陶器（第4号溝跡）

愛知県常滑市付近で焼かれた常滑焼の甕と、瀬戸市付近で焼かれた古瀬戸製品の破片です。

- 縄文時代
- 古墳時代
- 奈良・平安時代
- 中・近世